

社団法人 日本天文学会 2011 年度事業報告書

I. 巡回展、七夕講演会（定款第 2 章第 5 条 8 項に該当の事業）

1. 2009 年に開始した世界天文年巡回展：「ガリレオの天体観測から 400 年：宇宙の謎を解き明す」を、2010 年度に引き続き、2011 年 3 月～5 月に熊本市立熊本博物館で開催し、3 年間にわたって行なった巡回展を終了した。
2. (7 月 7 日を中心とした)7 月上旬に全国同時七夕講演会を全国 87 か所で開催し、約 4000 人が参加した。また、同時期には京都府の小中高校を対象に京都大学のスタッフや大学院生による出張天文授業も行われ 47 校 1000 人が参加した。

II. 出版物の刊行（定款第 2 章第 5 条 2、3 項に該当の事業）

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第 63 巻 1 号～6 号、特別増刊号 1～3 号の計 9 回刊行。総論文数 186 編 (うち Letter 14 編、暗黒星雲カタログ 1 編、VERA 特集 10 編、すばる特集 19 編、はやぶさ特集 10 編、すざく・MAXI 特集 39 編)、総頁数 2,488 頁、発行部数 1,350 部、偶数月の 25 日発行、「科学研究費補助金(学術定期刊行物)」(日本学術振興会) 750 万円を受領。
2. 天文月報 : 第 104 巻 1 号-12 号を刊行。総頁数 758 頁、総目次 10 頁、発行部数 3,200 部、毎月 20 日発行。
3. 年会予稿集 : 2011 年春・秋季年会の 2 回発行、総頁数 645 頁、春 800 部、秋 800 部印刷。
4. ジュニアセッション : 春季講演予稿集 120 頁、600 部印刷。
5. 公開講演会パンフレット : 春・秋年会時の公開講演会の際に配付するパンフレットを予定していたが、最終的に製作しなかった。

III. 年会の開催（定款第 2 章第 5 条 1 項に該当の事業）

1. 2011 年春季年会

3 月 16 日 (水) から 19 日 (土) の 4 日間、筑波大学 (茨城県・つくば市) にて開催予定であった 2011 年春季年会は、3 月 11 日の東日本大震災の影響を受け、急遽、開催中止とすることとした。筑波大学では口頭講演会場 8、ポスター会場 5、展示会場 2 を使用し、口頭講演 403 件、ポスター講演 229 件の合計 632 の講演を予定していた。開催地幹事の梅村雅之氏をはじめ筑波大学のスタッフ・学生の皆様には、年会の準備にあたりご尽力を頂いた。また、震災直後の大変な状況の中にもかかわらず、迅速に年会中止の対応をとって頂いた。

開催を予定していた、企画セッション 1 件 (「巨大ブラックホールと銀河の共進化」(世話人 : 和田桂一 (鹿児島大学)、谷口義明、長尾透 (愛媛大学)、梅村雅之 (筑波大学)、秋山正幸 (東北大学)))、天文教育フォーラム、ならびに、ジュニアセッションは中止とした。また、特別セッション 2 件 (「ALMA 特別セッション」世話人 : 斎藤正雄 (国立天文台)、「LCGT 特別セッション」世話人 : 大橋正健 (東京大学宇宙線研究所))、ならびに、林忠四郎賞受賞講演、研究奨励賞受賞講演は延期し、2011 年秋季年会にて開催することとした。

記者発表ならびに公開講演会については、日程を変更し以下の通り開催した。

◇ 記者発表

3 月 15 日 (火) に予定していた記者発表は延期し、6 月 13 日 (月) 14 時から、国立天文台三鷹キャンパス大セミナー室 (すばる棟) において行った。岡村定矩理事長より挨拶と春季年会の中止に至る経緯、ならびにその後

の対応について説明がなされた。その後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。発表者と発表タイトルは以下のとおりである。本記者発表には、報道機関4社の出席があり、これらの内容は、記者会見後の6月15日の段階で確認できたもので、計28紙の新聞に掲載された。

- (1) 合体で巨大化するブラックホール
記者会見出席者：梅村雅之、谷川衝（筑波大学）
- (2) 「はやぶさ」地球帰還時の光学望遠鏡による観測とその軌道解析
記者会見出席者：吉川真（宇宙航空研究開発機構）、山口智宏（総合研究大学院大学）、八木雅文（国立天文台）
- (3) 目指せ、理科指導力アップ！小学校教員の卵
記者会見出席者：下井倉ともみ、土橋一仁（東京学芸大学）

◇ 公開講演会

3月20日に予定していた公開講演会は延期し、「全国同時七夕講演会」の1つとして、7月3日（日）14時～17時に、つくば国際会議場エポカルにて、「宇宙探求への道」というテーマで行った。講演者と講演タイトルは以下の通りである。

- (1) 佐藤直樹（宇宙航空研究開発機構）「宇宙ステーションと宇宙開発」
- (2) 小久保 英一郎（国立天文台）「星くずから惑星を作るー計算機の中の地球」
- (3) 中尾 憲一（大阪市立大学）「宇宙からの始まり」
- (4) 中井 直正（筑波大学）「南極から宇宙を観る」

◇ ジュニアセッション

第13回ジュニアセッション(口頭発表は3月19日、ポスター発表は全日を予定)は、年会の中止に伴い、講演を開催しなかった。予稿集は発行できたので、これをもって研究発表を行ったと報告して良いこととし、次回以降のセッションで同内容での講演も可とした。4月～5月にかけて、Web ページでプレゼンテーションやポスターの掲示を行いコメントを募る試みを実施し、100件以上集まったコメントを発表予定だった生徒に送付した。

2. 2011年秋季年会

2011年秋季年会は、9月19日(月)から22日(木)の4日間、鹿児島大学（鹿児島県・鹿児島市）にて口頭講演会場9、ポスター会場4を使って開催された。本年会は、震災の影響で当初予定していた東北大学（宮城県・仙台市）から鹿児島大学に会場を変更し、日程も3日間から1日延ばして4日間開催された。講演件数は口頭講演が489件、ポスター講演が283件であり、合計772講演で、過去最高の講演数であった。年会参加者は892名であった。57名の方々に座長を務めていただいた。

開催地幹事の半田利弘氏をはじめ鹿児島大学のスタッフ・学生の皆様のご尽力により、滞りなく進行した。

懇親会：9月21日(水) 鹿児島市宮桜島フェリー桜島丸（サクラエンジェル）（参加者数478名）

◇ 記者発表

秋季年会の前日、9月18日午後1時から、鹿児島大学稲盛会館一階中会議室にて行われ。岡村定矩理事長からの挨拶と日本天文学会秋季年会の簡単な紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関6社の出席があった。9月20日までに確認できたもので、テレビニュースにて2件、新聞で4件の報道があった。

- (1) 宇宙最大の爆発「ガンマ線バースト」は強磁場ジェットからの放射だった
記者会見出席者：米徳大輔（金沢大学）
- (2) 揺れる巨大ブラックホールの大気ーブラックホールの時空の発見ー
記者会見出席者：加藤成晃、三好真（国立天文台）
- (3) VERA 望遠鏡と鹿児島大望遠鏡で求めた 600 個のミラ型変光星の立体配置
記者会見出席者：面高俊宏、宮之下亮（鹿児島大学）

◇ 天文教育フォーラム

年会初日午後4時45分から1時間半、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが開催され、約130名が参加した。テーマは「震災後のいま、社会にたいして私たちが果たすべき役割は？」と題して、3名の講師による講演と会場からの体験談や御意見によって構成されたフォーラムを行った。

東北大学の千葉柁司氏からは「研究教育の現場から」、郡山市ふれあい科学館の安藤享平氏からは、「公開施設（プラネタリウム・公開天文台）の現場から」、東京大学の高梨直紘氏からは「サイエンスコミュニケーションの現場から」というタイトルでそれぞれ東日本大震災直後の状況から現在の状況までの報告があった。各講演のあとに、参加者の体験、考えたことなどの紹介があった。参加者も約140名と盛況であった。

◇ 林 忠四郎賞受賞記念講演

年会3日目午後4時20分から30分間、2010年度林忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者は東京工業大学の河合誠之氏で、講演題目は「ガンマ線バーストの系統的研究」であった。講演では、この分野のこれまでの研究の進展と、その中で河合氏らによって、地上望遠鏡と宇宙望遠鏡を組み合わせた観測手法で得られてきた研究成果について、わかりやすく紹介された。特に、2005年に発見した赤方偏移6を超えたガンマ線バーストの発見については、発見から論文としてスピーディーに成果をまとめる過程についての詳細を紹介された。会場は200名を越える盛況ぶりであった。

◇ 研究奨励賞受賞記念講演

年会3日目午後3時15分から1時間、2010年度研究奨励賞受賞者3名の受賞記念講演が行われた。一人あたり20分という短い時間ではあったが、それぞれの研究がわかりやすく紹介された。受賞者と講演題目は次の通りである（五十音順、敬称略）。

鈴木建（名古屋大学）「まず太陽からはじめよう」

長尾透（京都大学）「宇宙化学進化の観測的研究と私」

馬場彩（青山学院大学）「X線観測による銀河系内宇宙線加速源の研究」

参加者は200人程度と盛況であった。

◇ 「ALMA特別セッション：ALMA東アジア地域センター構想と共同利用について」

年会初日に開催され100人以上の参加者があった。司会進行は国立天文台の齋藤正雄氏が行った。最初に井口聖ALMA 東アジアプロジェクトマネージャーから、最初の共同利用（Cycle 0）開始直前のALMA建設進捗状況が報告され、準備が着々と進んでいる様子が紹介された。次に齋藤正雄ALMA 東アジアプロジェクトサイエンティストより、今回のCycle 0から次回共同利用のCycle 1でどんな観測モードが新たに導入され、サイエンスを広げるかの説明があった。そしてALMA東アジア地域センター（EA-ARC）マネージャーの奥村幸子氏から、最初の共同利用におけるプロポーザルの分布や審査、次回以降の注意点などの報告があった。またEA-ARCサイエンティストのDaniel Espada氏よりALMA観測所が取得している科学評価用データの意義、これまでの進捗、そしてアンテナ銀河のモザイクイメージをはじめすでに公開されたデータの紹介があった。講演会場は立ち見ができるほど盛況であった。

◇ 「LCGT特別セッション」

年会2日目に開催され100人程度の参加者があった。司会進行は東京大学宇宙線研究所の大橋正健氏が行った。まず、LCGTが2010年6月に最先端研究基盤事業に採択されたことが紹介され、最初の講演として、宇宙線研究所重力波推進室長の黒田和明氏よりLCGT計画の概要の説明があった。重力波検出の原理の説明に始まり、LCGT計画の目標と特徴（特に地下設置と低温ミラー）、計画スケジュール、組織図および国際協力の現状について報告された。

続いて、LCGT計画データ解析チーフである大阪市立大学の神田展行氏から、LCGTのサイエンスについて解説

- ・池谷薫(いけやかおる)氏 彗星 P/2010 V1 (Ikeya-Murakami)の発見
- ・坪井正紀(つぼいまさき)氏 超新星 2010B の発見、超新星 2010gi の発見、
超新星 2010gz の発見、
- ・板垣公一(いたがきこういち)氏 超新星 2010ai の発見、超新星 2010cp の発見、
超新星 2010cr の発見、超新星 2010dq の発見、
超新星 2010gv の発見、超新星 2010he の発見、
超新星 2010ki の発見、超新星 2010kp の発見、
超新星 2010kx の発見
- ・小石川正弘(こいしかわまさひろ)氏 超新星 2010jo の発見

◇ 天体発見功労賞 (9氏)

- ・小嶋正 (小嶋正) 氏 はくちょう座 V407 の新星爆発の独立検出、
新星 さそり座 V1311 の独立発見
- ・坂庭和夫(さかにわかずお)氏 はくちょう座 V407 の新星爆発の独立検出
- ・多胡昭彦(たごあきひこ)氏 はくちょう座 V407 の新星爆発の独立検出
- ・櫻井幸夫(さくらいゆきお)氏 新星 さそり座 V1311 の独立発見
- ・西村栄男(にしむらひでお)氏 新星 さそり座 V1311 の独立発見
- ・村上茂樹(むらかみしげき)氏 彗星 P/2010 V1 (Ikeya-Murakami)の独立発見
- ・後藤邦昭(ごとうくにあき)氏 超新星 2010bj の独立発見
- ・小島信久 (こじまのぶひさ)氏 超新星 2010gl の独立発見
- ・板垣公一(いたがきこういち)氏 超新星 2010hh の独立発見

◇ 天文功労賞 (3氏)

長期的な業績

- ・門田健一 (かどたけんいち) 氏 「長期にわたる膨大な数の彗星観測および新天体確認への貢献」

短期的な業績

- ・立川正之 (たちかわまさゆき) 氏 : 「木星面上の発光現象の検出」
- ・金子静夫 (かねこしずお) 氏 : 「明るい や座 WZ 型矮新星の独立発見」

◇ 林 忠四郎賞 (1氏)

- ・河合誠之氏 : 東京工業大学・教授
研究の表題「ガンマ線バーストの系統的研究」

◇ 研究奨励賞 (3氏)

- ・鈴木 建氏 : 名古屋大学大学院理学研究科・准教授
研究テーマ「コロナ加熱・太陽風加速理論の構築と恒星風・円盤風への応用」
- ・長尾 透氏 : 愛媛大学大学院理工学研究科数理物質科学専攻・助教
研究テーマ「宇宙化学進化の観測的研究」
- ・馬場 彩氏 : 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所特定課題研究員
ダブリン高等研究所シュレディンガーフェロー
研究テーマ「X線観測による銀河系内宇宙線加速源の研究」

◇ 欧文研究報告論文賞 (2編)

論文題目 : Ly α Emitters at $z = 5.7$ in the Subaru Deep Field

著者 : Kazuhiro Shimasaku、 Nobunari Kashikawa、 Mamoru Doi、 Chun Ly、 Matthew A. Malkan、 Yuichi

Matsuda, Masami Ouchi, Tomoki Hayashino, Masanori Iye, Kentaro Motohara, Takashi Murayama, Tohru Nagao, Kouji Ohta, Sadanori Okamura, Toshiyuki Sasaki, Yasuhiro Shioya, and Yoshiaki Taniguchi

出版年等：2006、Vol. 58、pp. 313-334

論文題目：Monte Carlo Simulator and Ancillary Response Generator of Suzaku XRT/XIS System for Spatially Extended Source Analysis

著者：Yoshitaka Ishisaki, Yoshitomo Maeda, Ryuichi Fujimoto, Masanobu Ozaki, Ken Ebisawa, Tadayuki Takahashi, Yoshihiro Ueda, Yasushi Ogasaka, Andrew Ptak, Koji Mukai, Kenji Hamaguchi, Masaharu Hirayama, Taro Kotani, Hidetoshi Kubo, Ryo Shibata, Masatoshi Ebara, Akihiro Furuzawa, Ryo Iizuka, Hirohiko Inoue, Hideyuki Mori, Shunsaku Okada, Yushi Yokoyama, Hironori Matsumoto, Hiroshi Nakajima, Hiroya Yamaguchi, Naohisa Anabuki, Noriaki Tawa, Masaaki Nagai, Satoru Katsuda, Kiyoshi Hayashida, Aya Bamba, Eric D. Miller, Kosuke Sato, and Noriko Y. Yamasaki

出版年等：2007、Vol. 59、pp. S113-S132

V. 総会・評議員会・理事会及び監査(定款第4章第18条および第6章第29-43

条に該当の事業)

1. 総会

2011年春季総会

日時：2011年3月17日(金) 15:00~15:35

場所：国立天文台三鷹キャンパスすばる棟大セミナー室(三鷹市)

議長：岡村 定矩 (天文月報2011年5月号 p235 議事録参照)

2011年度秋季総会

日時：2011年9月20日(木) 17:15:00~19:20

場所：鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟1号館111号講義室(鹿児島市)

議長：岡村 定矩 (天文月報2011年12月号 p750 議事録参照)

2. 評議員会

日時：2011年2月5日(土) 13:00~17:00

場所：東京大学理学部1号館336号室(東京都文京区)

議長：井上 一 (天文月報2011年4月号 p220 議事録参照)

日時：2011年3月17日(土) 16:00~17:50

場所：国立天文台三鷹キャンパス大会議室(三鷹市)

議長：観山 正見 (天文月報2011年6月号 p320 議事録参照)

日時：2011年7月9日(土) 12:00~17:50

場所：東京大学理学部1号館336号室(東京都文京区)

議長：奥村 幸子 (天文月報2011年9月号 p515 議事録参照)

日時：2011年9月20日(火) 12:00~13:10

場所：鹿児島大学郡元キャンパス理学部2号館212号室(鹿児島市)

議長：家 正則（天文月報 2011 年 12 月号 p748 議事録参照）

3. 理事会

日時：2011 年 1 月 22 日（土）13:00～17:00

場所：国立天文台三鷹キャンパス大会議室（三鷹市）

議長：岡村 定矩（天文月報 2011 年 4 月号 p217 議事録参照）

日時：2011 年 3 月 17 日（土）10:00～12:15

場所：国立天文台三鷹キャンパス大会議室（三鷹市）

議長：岡村 定矩（天文月報 2011 年 6 月号 p317 議事録参照）

日時：2011 年 6 月 18 日（土）13:00～18:00

場所：東京八重洲ホール 6F 612 号室（東京都中央区）

議長：岡村 定矩（天文月報 2011 年 9 月号 p511 議事録参照）

日時：2011 年 9 月 19 日（水）18:30～19:50

場所：鹿児島大学郡元キャンパス理学部 2 号館 212 号室（鹿児島市）

議長：岡村 定矩（天文月報 2011 年 12 月号 p747 議事録参照）

4. 2010 年度監査

日時：2011 年 1 月 19 日（水）10:00～16:00

場所：国立天文台三鷹キャンパス解析研究棟 1F 院生セミナー室（三鷹市）

出席者：紀伊 恒男、牧島 一夫、田代 信、松尾 宏、竹田 洋一、本原 顕太郎、宮下 暁彦

VI. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する共通内規」に準拠）

本年度は以下の 15 の委員会と 1 の顧問会議において構成メンバー（任期 2 年の第 1 年目）により各種活動が行なわれた。

◇ 欧文研究報告編集顧問会議

2010 年より始めた PASJ の国際化の第一歩として、編集委員に東アジアより 2 名程度参加いただくこととし、2010 年後半に人選と交渉を行い、2011 年より中国、韓国各 1 名が編集委員を務めている。

11 月 25 日に編集顧問会議を国立天文台で開催し、今後の活動として、外国人の論文査読経験者や有力雑誌の編集長に、PASJ の今後について意見を聞くアンケートを実施することとした。

◇ 欧文研究報告編集委員会

2011 年度は、233 編の論文が投稿された。通常号を 6 回、増刊特集号を 3 回、合計 9 回発行し、掲載総論文数 186 編、総頁数は過去最高の 2,488 頁となった。通常号では、VERA とはやぶさ大気圏再突入、増刊特集号では、暗黒星雲の全天アトラス、すばる、すざく・MAXI の論文を特集として掲載した。今年から、Yi-Peng Jing（上海天文台）、Hyung Mok Lee（ソウル大）の両氏が編集委員に加わった。

◇ 天文月報編集委員会

第 104 巻 1 号～12 号を毎月 20 日に各号 3200 部発行した（総ページ数 758 頁、総目次 10 頁）。ホットな話題についての特集記事を組み、啓蒙に関わるいくつかの新シリーズを企画した。また贈呈先の見直しも行った。

- ◇ 年会実行委員会
2011年度日本天文学会秋季年会（9月19日～22日・鹿児島大学）を開催した。同春季年会（3月16日～19日・筑波大学）は東日本大震災の影響で中止した。年会の準備にあたっては、1月5日および7月4日に年会実行委員会を国立天文台において開き、プログラムを編成した。
- ◇ 天文教育委員会
年会時の公開講演会と天文教育フォーラム（共催）を開催した。2012年度以降開催分についても準備を開始した。ほとんどの検討は随時電子メールで行っているが、秋の年会時に正式の委員会を開いた。講師派遣プロジェクトについては検討を継続するとともに、実際に講師派遣依頼を受け付けて9名の講師の紹介を行った。また、講師紹介ウェブシステム更新の検討を行った。
- ◇ 選挙管理委員会
2011年秋季総会に承認される第19期評議員（任期：2012年1月1日～2015年12月31日）候補者の選挙について、定款及び評議員選挙施行細則（「以下細則」）に則り、2011年5月20日～6月20日を投票期間とし、2011年6月21日に開票作業を行った。上位得票者に8名の現評議員が含まれていたため、細則第6条「現評議員の重任は最大5名まで」により候補となる現評議員を5名に絞り、この結果同率当選最下位者が2名となったため、細則第6条「最下位当選者に該当する者が複数の場合は、選挙管理委員会が抽選で順位を定める」より、選挙管理委員会により抽選を行い最終候補者を決定した。結果を天文月報2011年8月号（7月20日発行）に発表した。
- ◇ 林 忠四郎賞選考委員会
天文月報2011年9月号並びに tennet で林忠四郎賞受賞候補者の推薦と、欧文研究報告論文賞の推薦を会員にお願いした。その中から林忠四郎賞1件、欧文研究報告論文賞3篇を選考し、評議員会に推薦した。
- ◇ 研究奨励賞選考委員会
2011年度（第23回）の研究奨励賞に関して会員から推薦された受賞候補者を審議し、選考委員会からは今年度の候補者なしとして評議員会に報告した。
- ◇ 天体発見賞選考委員会
2011年の天体発見賞候補者（6氏1グループ2氏、15件）、天体発見功労賞候補者（3氏3件、天文功労賞（長期1氏、短期1氏）を決定し、評議員会に推薦した
- ◇ 内地留学奨学金選考委員会
2012年度の内地留学奨学金奨学生の募集を行い、応募者から1名の奨学生（15万円の支給）を決定した（天文月報2012年1月号参照）。
また、本内地留学制度に関して、特に国立天文台以外の機関に内地留学の指導を依頼する場合に問題となりそうなのが、審議のなかで報告・議論され、その内容を理事会に報告することを結論した。
また今後、本奨学金の申請者を増やす方策の検討を行った。
- ◇ 早川幸男基金選考委員会
渡航旅費補助者の募集を年4回行った。延べ28名の応募者（うち2名は滞在費援助希望）から19名（うち2名は滞在費援助）を採択した。今年度は昨年度より応募者数が若干少なかったが、通常の年と同程度の援助を行った。援助額は約257万円となった。
本会会員の佐藤明達氏より当基金へ寄付を頂いた。ここに深く感謝いたします。

- ◇ ネットワーク委員会
事務所内計算機を常に適正な状態に保持し、重要データ等のバックアップを適切に行なった。年会講演登録料の支払いをクレジットカードで決済できるシステムの構築を行い、本格運用を 2012 年度春季年会の支払いより開始した。
- ◇ 天文教材委員会
2012 年 5 月 21 日の金環日食と 2012 年 6 月 6 日の金星の太陽面通過に向けて、日本天文協議会と情報交換しながらその観察法や観察時の注意、さらにはワークシートや学校での教材案などを検討した。
- ◇ ジュニアセッション実行委員会
春季年会(筑波大学予定)時に開催予定だった第 13 回ジュニアセッションの予稿集(2011 年春の講演 54 件、2010 年秋の講演 1 件を収録)を発行した。口頭・ポスター発表は、年会の中止に伴って実施できなかったが、予稿集は発行できたので、これをもって研究発表を行ったと報告して良いこととし、次回以降のセッションで同内容での講演も可とした。4 月～5 月にかけて、希望者は Web ページにプレゼンやポスターを掲示し、それにコメントを募る試みを行った。その結果、100 を超えるコメントが集まり、発表予定だった生徒に送付した。
秋季年会(鹿児島大)においてはポスター発表のみ受け付けて 3 件の発表があった。
- ◇ 男女共同参画委員会
多様な構成メンバーがそれぞれの力を発揮して日本天文学会のより一層の活性化を図ることができるよう、共同参画の努力をまとめ、対外的な活動の窓口としても活動している。2010 年春の年会時に第 1 回男女共同参画タウンミーティングを開催したことが契機となって、天文女性研究者の会が立ちあがった。「男女」に拘ることなく共同参画を進めるため、天文学会の他の委員会との連携、そして男女共同参画学協会連絡会のオブザーバー会員として、可能な範囲で他学会とも連携しながら活動を展開している。
- ◇ 衛星設計コンテスト推進委員会
主催団体の一つとして、第 19 回衛星設計コンテストを行った。村上敏夫氏が審査委員、江副裕一郎氏が企画委員、坂尾太郎氏と岡村定矩理事長が実行委員を務めた。11 月 12 日に最終審査会が東京の学術総合センターで開催され、一次審査を通過した 11 件の発表と質疑応答があった。審査の結果、設計大賞、アイデア大賞、ジュニア大賞をはじめ、各主催団体賞が選定された。日本天文学会賞は、東京工業大学チームの『小惑星深部 CT 観測衛星「ACTIS」』が受賞した。

VII. 助成金（定款第 2 章第 5 条 5、7 項に該当の事業）

- ◇ 内地留学奨学金：
アマチュアを対象とした内地留学奨学生 2 名に各 12 万 5 千円の支給を行なった。
(内地留学奨学金選考委員会の項を参照)
- ◇ 早川幸男基金：
若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い 19 名 に対して総額約 257 万円円の援助を行なった。(早川幸男基金選考委員会の項を参照)
- ◇ 学術交流費（学生の年会参加旅費補助）：
賛助会員会費をもとに、大学院生などが秋季年会（鹿児島大学）に参加して研究発表をするための一部補助

を行なった。なお、今年度は、春季年会（筑波大学）が、震災のため中止となり秋季年会のみの補助となった。（発表者：57 総額 1,268,000 円）

VIII. 後援事業等（定款第 2 章第 5 条 6 項に該当の事業）

国際・国内シンポジウムなどの共催 1 件、後援 11 件、協賛 10 件を行った。

承諾	事業名	宛先（代表者）
2月16日 後援	天体天文物理若手夏の学校	校長：古沢 圭
2月16日 後援	第 58 回科学教育研究協議会全国大会	委員長：佐久間 徹
3月 3日 後援	スカイプラネタリウムⅡ	六本木ヒルズアーツセンター
3月 4日 後援	宇宙（天文）を学べる大学 合同進学説明会	大阪教育大学（福江 純）
4月 1日 協賛	Plasma Conference 2011	応用物理学会
4月20日 協賛	第39回 可視化情報シンポジウム	可視化情報学会
4月 8日 後援	第 9 回ジャパンサイエンス&エンジニアリング	朝日新聞社（JSEC2011）
5月18日 協賛	DV-X α 研究協会	岡山理科大学
5月20日 協賛	流体力学学会	流体力学学会
5月23日 共催	第53回宇宙科学技術連合講演会	日本宇宙航空学会
5月25日 後援	第1回天文高校生集まれ!!（近畿地区高校生天文活動発表会）	実行委員会：成田直
5月27日 後援	第 25 回天文教育普及研究会 年会	代表：大西高司
6月10日 協賛	日本物理学会セミナー「イメージングの科学」	日本物理学会
7月27日 協賛	三鷹太陽系ウォーク	三鷹ネットワーク大学推進機構実行委員会
7月14日 後援	第7回最新の天文学の普及をめざすワークショップ	国立天文台天文学情報センター 縣秀彦
7月30日 協賛	京都賞記念ワークショップ	（公財法）稲盛財団（稲盛和夫）
8月 1日 後援	日本天文学会2011年秋季年会公開講演会	鹿児島市教育委員会教育長 石踊政昭
8月 4日 後援	平成22年度「三鷹・星と宇宙の日」（三鷹公開日）	国立天文台長（観山正見）
8月22日 協賛	可視化情報全国講演会（富山2011）	可視化情報学会会長：岡本孝司
11月 9日 後援	第 2 回「星なかまの集い～天文楽サミット」	西はりま天文台公園長：黒田武彦
12月 7日 協賛	第7回光応用新産業創出フォーラム	応用物理学会 分科会 日本光学会
12月22日 協賛	第37回日本光学会シンポジウム	応用物理学会 日本光学会 応用物理研究所

IX. 民間の各賞・研究助成等への推薦（定款第 2 章第 5 条 5 項に該当の事業）

民間財団等の各種の賞および研究助成に対し、天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、理事長・副理事長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。（東レ科学技術賞 1、東レ科学技術助成 1、日本学術振興会育志賞 1、井上学術賞 1、日本学術振興会賞 2）

X. 事務所活動（定款第 1 章第 2 条）

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員 2 名と約 10 名の非常勤職員により、本会の各事業に関する実際的な業務活動が行われた。また宮下事務長が 2011 年末で退職した。

XI. 補助金・その他

1. 2012年3月の京都大学（龍谷大学）での学会時の公開講演会に、科学研究費補助金（研究成果公開促進費「研究成果公開発表（B）」として文部科学省研究振興局学術研究助成課より100万円を受領内定した。
2. 2011年3月の筑波大学での学会時の公開講演会に、科学研究費補助金（研究成果公開促進費「研究成果公開発表（B）」として文部科学省研究振興局学術研究助成課より100万円を受領したが、震災のため公開講演会は中止となり、準備のためそれまでに支出していた金額以外は返納した。
3. 欧文研究報告(Publications of the Astronomical Society of Japan : PASJ) に「科学研究費補助金（学術定期刊行物）」として日本学術振興会より750万円を受領した。
4. 会員からのPASJ寄贈74部のうち43部を発展途上国及びPASJ購入困難な国に寄贈(25ヶ国)している。
5. 創立100周年記念出版事業基金の残金を有効に利用するための次期事業の検討を行った。

会 員 数

2011年12月31日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2010年12月31日	1,759(364)	1,210	37	43	3,049
入 会	95(88)	37	0	1	133
退 会	81(32)	72	0	1	154
移 籍 (増)	3(0)	24			
移 籍 (減)	24(5)	3			
正会員へ(学生減)	(65)				
2011年12月31日	1,752(350)	1,196	37	43	3,028

(注：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

定款第12条に基づき、2月5日の評議員会議決を経て、正会員15名、準会員10名が2009年度からの会費未納のため除名された。

(文責 庶務理事：本原顕太郎)